

□ 一 次の各問いに答えよ。

問一 次の傍線部の漢字は正しい読みがなに、カタカナは正しい漢字に改めよ。(楷書ではつきり大きく書くこと。)

- ① 壁画をホシユウするための予算を計上する。
- ② 彼女はザツシのモデルとして活躍中である。
- ③ どの店も、コクルイの値段が急騰している。
- ④ オサナゴコロに残った深い悲しみを背負う。
- ⑤ 彼の逆転打で試合のシオメが大きく変わる。
- ⑥ 君の説明は全くマトハズれで理解できない。
- ⑦ 抑揚のない話し方を聞くと、つい眠くなる。
- ⑧ その発想は陳腐で、新企画には繋がらない。
- ⑨ このプロジェクトに助太刀をお願いしたい。
- ⑩ 消費税の増税に国民は異口同音に反対した。

問二 次の文の「カオス」の意味として最も適当なものを、後のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。
カオスの中にこそ、新しい秩序の芽があると言える。

- ア 心中 イ 明瞭 ウ 不定 エ 混沌 オ 未分
- エ

問三 次の短歌の()に当てはまる枕詞を後のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- () 夜のふけゆけば久木生ふる清き川原に千鳥しば鳴く 『万葉集』
- ア あしひきの イ あらたまの ウ しろたへの エ たまぼこの オ ぬばたまの

問四 次は、ある作歌の作品群である。この作歌の日本文学における文芸理念・思潮と関係の深いものを後のア・イのうちから一つ選び、記号で答えよ。

【作品群】 『網走まで』『和解』『暗夜行路』

ア 浪漫主義

イ 白樺派

ウ 自然主義

エ 余裕派

オ 新感覚派

イ

問五 次の文章には、いくつかの動詞が使われているが、そのうち「下一段動詞」が一つ含まれている。その動詞を抜き出し、終止形に直しなさい。

私はそれまでに、この踊子たちを二度見ているのだった。最初は私が湯ヶ島へ来る途中、修善寺へ行く彼女たちと湯川橋の近くで出会った。その時は若い女が三人だったが、踊子は太鼓をさげていた。（『伊豆の踊子』）

|二|

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき
掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき
掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

山下秀雄『日本のことばとところろ』より（

問一 傍線部①「人生の旅をともしする人たち」とあるが、筆者は、本文中、このことを別の語で言い換えている。その語を五字
で抜き出して書け。

問二 傍線部②「「うち」と「よそ」とを分けるこの線の内側には、定かな仕切りはありません。ただ濃淡の差があるだけです」とあるが、筆者がこのように考えた理由を次の文にまとめている。()に当てはまる語を後のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

「うち」と「よそ」とを分ける壁は、()的な区分によってしか存在しないから。

ア 表面 イ 固定 ウ 根本 エ 流動

問三 傍線部③「ことばはわたくしたちのものの考え方に、深く食い入っているのです」とあるが、これはどういうことを伝えたものか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア ことばと意識とは一体化していて、他の言葉に言い換えることができないほど緊密な関係にあるということ。

イ ことばによって表現された考え方は、私たちに定着した意識構造の表れであり容易に変わらないということ。

ウ 「うち」「よそ」ということばは、私たちの日常生活の中で、常に意識されながら使われ続けているということ。

エ 「うち」「よそ」ということば以外では表現できないほど、このことばが私たちの考え方を支配しているということ。

問四 本文中の には、どのような言葉が入るか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 精神的な イ 物理的な ウ 国際的な エ 倒錯的な

問五 傍線部④「こういうことばには、息づまるほどの人間関係のしがらみ、生活の汗臭さが感じられます」とあるが、筆者は、どういうことを伝えようとしているか。最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア そのことばが、人々の考え方に對して大きな影響を与えている。

イ ことばは、人間関係や生活をあらわすために作り出されている。

ウ 人々の考え方が、ありふれたことばの使い方にあらわれている。

エ 同じことばでもニュアンスが違うなど、意味があいまいである。

|三|

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページに ※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき
掲載してよ 掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※本ページにおける一部の文章については、著作権法の規程に基づき
掲載しておりません。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(鷺沢萌『ポケットの中』より。問題のため一部原文を改変)

問一 傍線部①「目立たぬながらも確実に支えていてくれた」とあるが、これは、深大寺のおじいがどのような存在であったこと

を表しているか。最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 目立って何かしてくれるというわけではないが、本当に困った時に手を貸してくれる存在

イ その時は助けてもらったと実感するわけではないが、後になるとありがたさがわかる存在

ウ 人目につく形で何かするわけではないが、二人が困らないように常に配慮してくれる存在

エ 二人から何かを積極的に頼むというわけではないが、その人が居るだけで安心できる存在

問二 傍線部②「あのひと」とあるが、これは誰のことか。最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア 克子の実の祖父 イ 神戸に居た克子の父 ウ 克子の母の弟 エ 克子の亡くなった祖母

問三 傍線部③「そう簡単に片付かない何か」とあるが、これは、母のどんな気持ちを表したもののか。最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

ア こらえきれない怒り

イ 否定しきれない愛着

ウ 苦勞を背負わされた恨み

エ 意地を張った後ろめたさ

問四 () Aには「口」を使った慣用句が入る。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 口を切る

イ 口を揃える

ウ 口をたたく

エ 口をはさむ

エ

問五 傍線部④「気持ちの空腹」とあるが、本文中から母のこの様子を説明した表現を抜き出し、二十字で書け。

③ いかなることにか

ア どんな意味だろう

イ どんなことになるだろう

ウ どうしようもないだろう

エ どうすることもできないだろう

問三 二重傍線部「しかじか」とは、具体的にどのようなことを言っているのか。その内容として最も適切なものを次のア～エから選べ。

ア 「分に過ぎた贅沢を左大臣自らが行うのはよろしくない。直ぐにこちらに呼び寄せよ」との天皇の仰せです。

イ 「贅沢の禁制が厳しいおり、左大臣が派手な姿で参内したのは不都合だ。即刻退出せよ」との天皇の仰せです。

ウ 「分に過ぎた贅沢をすべての役人がしないように、左大臣が即刻見本を見せるように心得よ」との天皇の仰せです。

エ 「贅沢の禁制を出しているのに、左大臣が十分な働きをしないのは論外だ。即刻改善させよ」との天皇の仰せです。

問四 傍線部④の部分は、語り手のことばである。どのようなことを言っているのか、最も適切なものを次のア～エから選べ。

ア そんなことをしてこと世の贅沢もおさまるだろうと、天皇と事前に打ち合わせて行った。

イ そんなことをして贅沢を助長させるのはよくないことだと、天皇にそれとなく忠告をした。

ウ そんなことをしても世の中の贅沢は収まることはないだろうと、天皇を二人で嘆きあった。

エ どんなふうによれば贅沢がおさまるようになるだろうかと、天皇とこっそり相談しあった。